

学問の楽しさ

申込不要
参加無料

日時：2025年6月21日（土）13:00～14:30

場所：武雄市役所1階ホール

武雄・佐賀から見る東洋美術史 ～時空の旅をとoshした異文化理解～

武雄や佐賀には、大陸や半島から伝来してきた文物がたくさんあります。今回の講演では、そのうち仏画や肖像画をとりあげて、異国の過去へタイムスリップする時空の旅へ誘います。

そもそも画家の手仕事だけでこれらの文物が誕生したわけではありません。作り手以外に制作の構想を主導した人や鑑賞者がいます。仏画であれば、発願して費用を出した人、結縁を集めた勧進僧や仏画を掛けわたす法会についても考慮しなければなりません。肖像画であれば、モデルや付与される人の意向や両者の人間関係も重視されます。このように、当初の制作背景を明らかにすることは、異国の過去を生きた人びとと出逢い、彼らのいとなみを再発見する機会となります。つまり、身近な文物は、武雄や佐賀から、より広い異文化世界について深く考えるための橋渡しをしてくれるのです。

主な作例

武雄市、広福護国禅寺藏「阿弥陀八大菩薩像」 高麗時代、県指定重要文化財

唐津市、鏡神社藏「楊柳観音像」、高麗時代、国指定重要文化財

鳥栖市、萬歳寺藏「見心来復像」、元時代、国指定重要文化財

講師 **井手 誠之輔 氏**

九州大学 名誉教授

1959年、佐賀市生まれ。九州大学文学部卒、同修士終了。長らく東京国立文化財研究所に勤務し、2004年から九州大学人文科学研究院教授に着任。同主幹教授を経てこの春退職し、現在、九州大学名誉教授、東京文化財研究所名誉研究員。美術史学会代表委員、仏教芸術学会運営委員等をつとめ、文化庁、佐賀県、福岡県、山口県、福岡市等の文化財審議委員を歴任。東アジア絵画史を専門とし、大陸及び半島由来仏画を制作当初の地域社会との関係性に戻して再解釈する研究、最先端のデジタル画像を活用した研究で名高い。国内や韓国・アメリカで開催された特別展への協力多数。主著に『井手誠一回顧展：絵に賭けた熱い想い』（1993年、佐賀新聞社）、日本の宋元仏画』（至文堂、2001年、第13回國華賞）、『寧波の美術と海域交流』（2009年、中国書店）、『Light & color：絵画表現の深層をさぐる』（中央公論美術出版、2009年）『大徳寺伝来五百羅漢図』（思文閣出版、2014年）等がある。



問い合わせ

学校法人旭学園 新大学設置準備事務室

TEL 0952-25-6661(代表) <https://www.asahigakuen.ac.jp/tau/>

主催：学校法人旭学園 共催：武雄市



次回は7月19日

講師：梅村 仁 氏

「人が集まるまちづくり～米国ポートランドから学ぶ～」